

「職業実践専門課程」が指し示す 専門学校教育のこれから

2014年4月、専門学校に登場した「職業実践専門課程」。
まだ高校の先生方には耳なじみがない名称かもしれないが、
この新しい制度の創設は、これからの専門学校教育の位置づけや役割が
大きく変わっていくことを意味している。
では、制度の内容と導入状況、今後の高等教育全体への影響などを解説しよう。

まとめ／伊藤敬太郎

企業と連携した演習・実習などを通して 実践的な職業能力を養成する

職業実践専門課程とは、企業等との連携によって実践的な職業教育を行う専門学校の学科のこと。まったく新しい学科が登場するわけではなく、既存の学科に関して各専門学校が申請を行い（一部認定要件に合わせた整備は行われる）、都道府県知事等の推薦に基づき文部科学省において審査したうえで文部科学大臣によって認定される制度だ。この3月に最初の認定が行われ、4月から認定学科での教育が始まった。

職業実践専門課程に認定された学科に共通する特色として、文部科学省は次の5つを挙げている。

- ① 企業等が参画する「教育課程編成委員会」を設置してカリキュラムを編成している
- ② 企業等と連携して、演習・実習等の授業を実施している
- ③ 企業等と連携して、最新の実務や指導力を修得するための教員研修を実施している

- ④ 企業等が参画して学校評価を実施している
- ⑤ 学校のカリキュラムや教職員等についてHPで情報提供している

図1に示した認定要件もこれらの特色と直接関連した内容となっている。ポイントは、再三キーワードとして登場している「企業等との連携」だ。職業能力の養成に主眼を置く専門学校では、企業の現場が求める知識・スキルを修得させることが最も重要な教育目的。しかも、現場の技術は常に進化・変化を続けており、最適な教育を提供するには最新のニーズを把握することが必須だ。その点を重視して、職業実践専門課程の認定は行われている。

専門学校の教育内容や学校運営を 明確な評価基準のもとに国が認定

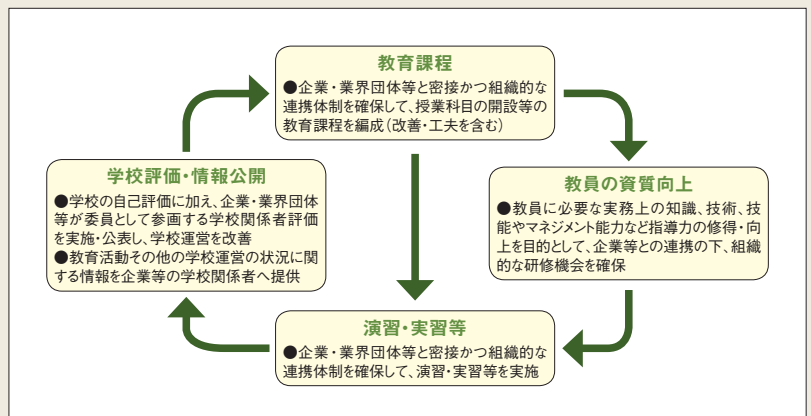
その教育の質を保証する仕組みはどのようになっているのだろうか。それを示したのが図2だ。特色でも挙がっているよう

図1 職業実践専門課程の認定要件

● 修業年限が2年以上
● 企業等と連携体制を確保して、授業科目等の教育課程を編成
● 企業等と連携して、演習・実習等を実施
● 総授業時間数が1700時間以上 または総単位数が62単位以上
● 企業等と連携して、教員に対し、実務に関する研修を組織的に実施
● 企業等と連携して、学校関係者評価と情報公開を実施

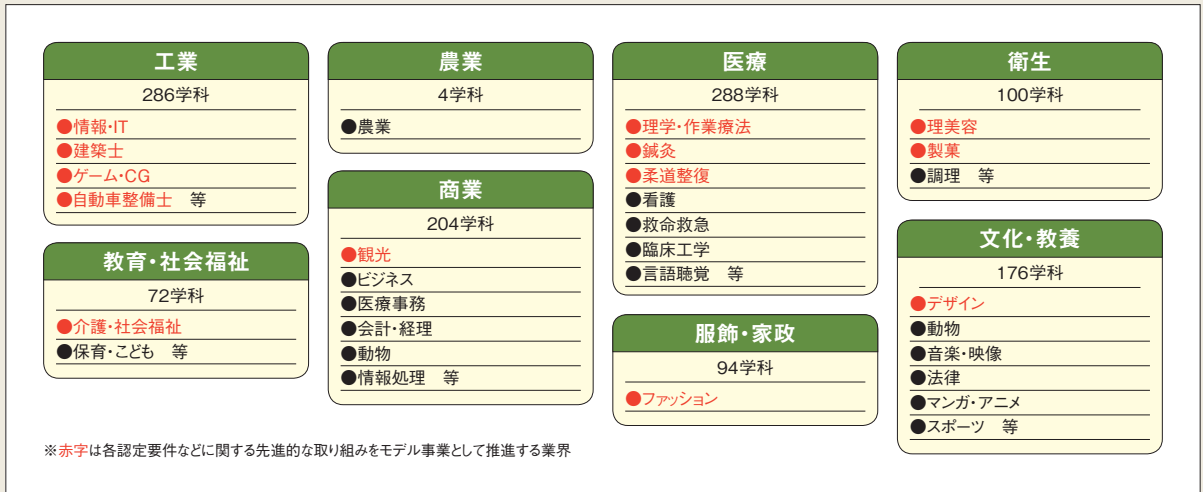
出所／文部科学省

図2 教育活動の流れのイメージ



出所／文部科学省

図3 分野別の認定学科数 (2014年8月現在)



出所／文部科学省

に、カリキュラムや授業科目の編成から企業等がかかわり、かつ教員の資質向上にも関与していく。それが実際の実習・演習に反映され、その結果も企業等が加わって評価。そこで挙げた改善点をカリキュラムに反映させていくというPDCAサイクルが構築されている。

すでに多くの専門学校では企業と協力の取り組みなどは行われていた。しかし、その教育や取り組みの内容、水準に関しては特に客観的な評価がされてこなかった。実際に学校によるバラつきも目立っていたため、明確な評価基準を設け、基準を満たす学科に国がお墨付きを与える趣旨でスタートしたのがこの制度なのだ。

2014年度の認定学校数・学科数は全国で470校1365学科(8月時点)。分野別の認定学科数をみると、最も多いのは、理学・作業療法、鍼灸などの「医療」で288学科。次いで、情報・IT、建築士などの「工業」が286学科、デザイン、動物などを含む「文化・教養」が176学科となっている。なお、分野別の学校数(2013年度の専修学校全体のデータ。学校基本調査より)をみると、「医療」1298校、「文化教養」708校、「商業」640校、「衛生」600校、「工業」480校、「教育・社会福祉」462校、「服飾・家政」242校、「農業」62校。この数字と比較すると、「服飾・家政」「工業」分野で特に認定が進んでいることがわかる。

認定学校数・学科数は来年度以降一気に増えていくと見込まれている

また、都道府県別の認定状況は図4のとおり。やはり専門学校数が多い東京都、大阪府の認定学校数・学科数が突出している。県内の専門学校数に比較して認定学校数・学科数が多いのは新潟県など。なお、青森県、秋田県、山梨県をはじめ9県で初年度の認定学科数がゼロだった。

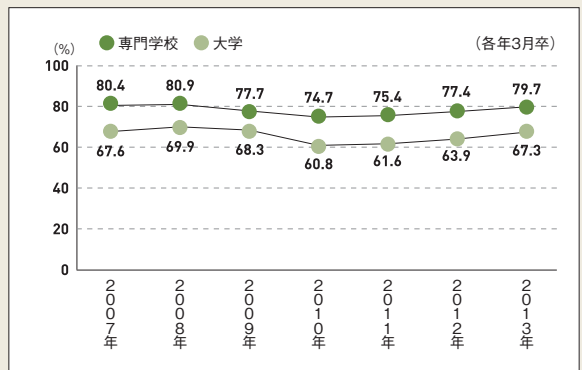
ただし、まだ制度そのものがスタートしたばかりなので以下の

図4 都道府県別の認定学科数 (2014年8月現在)

都道府県	認定学校数	認定学科数	都道府県	認定学校数	認定学科数
北海道	35	89	滋賀県	—	—
青森県	—	—	京都府	15	36
岩手県	4	22	大阪府	54	204
宮城県	8	20	兵庫県	10	23
秋田県	—	—	奈良県	—	—
山形県	2	6	和歌山県	—	—
福島県	6	23	鳥取県	—	—
茨城県	8	23	島根県	5	10
栃木県	1	3	岡山県	6	10
群馬県	18	33	広島県	16	40
埼玉県	10	23	山口県	6	8
千葉県	13	22	徳島県	4	13
東京都	61	240	香川県	10	31
神奈川県	26	53	愛媛県	9	31
新潟県	25	47	高知県	4	18
富山県	2	7	福岡県	36	127
石川県	5	8	佐賀県	—	—
福井県	2	3	長崎県	1	1
山梨県	—	—	熊本県	3	3
長野県	5	8	大分県	2	3
岐阜県	1	1	宮崎県	7	17
静岡県	13	26	鹿児島県	1	1
愛知県	25	109	沖縄県	11	23
三重県	—	—	合計	470	1365

出所／文部科学省

図5 専門学校と大学の就職率の推移



出所／文部科学省「学校基本調査」

点で注意が必要だ。

認定に向けた取り組みは各学校で現在も進められており、来年度、再来年度と認定学校数・学科数は一気に増えていくと見込まれている。そのため、特に現時点では、認定を受けていないことが、その学科が企業等との連携が十分でないことを意味するものではない。

大学と専門学校の役割を明確に分ける方向で 高等教育を複線化

では、職業実践専門課程導入は今後の専門学校教育のあり方にどのように影響するのだろうか。

ポイントになるのは大学との関係だ。大学進学率は2013年に若干低下したものの、ここ数年はほぼ割前後で推移。日本の高等教育は大学を中心に考えられており、一般的な見方として、専門学校は「大学の下」に位置づけられる傾向がある。また、専門学校の役割は「職業能力の養成」だが、日本の場合、大学でも、学術教育に加えて職業教育を行っている。かつ、対象とする職業教育の領域も専門学校と重なる部分広がっており、両者の役割の境界はあいまいだ。

その一方で、専門学校卒業生の就職率は大学と比べても高い水準をキープしており(図5)、就職難の時期には特に強い存在感を示していたのも事実。決して大学進学率上昇の波に呑まれて「職業教育」という役割を失ったわけではない。むしろ、近年は、明確な目的がなく「とりえず大学へ」進学することへの疑問が浮上している。

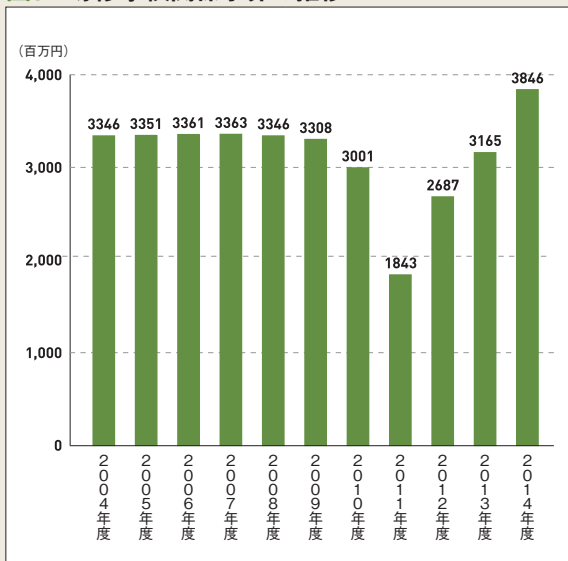
このような国内の混沌とした状況と比較すると、欧米のシステムはわかりやすい。学術を探究するアカデミックラインと職業能力を養成するプロフェッショナルラインが明確に分かれているのが一般的なのだ。高等教育に進む段階で(あるいはそれ以前に)どちらの道に進むかを決めて進学するため、目的とのアンマッチは起きにくい。

職業実践専門課程の導入の背景には、日本でもアカデミックラインとプロフェッショナルラインを分け、大学と専門学校それぞれの役割を明確にすることで、双方の教育を充実させていこうというねらいがある。つまり、「大学に行けないから専門学校へ」ではなく、「学術を探究したいなら大学へ、職業能力を身につけたいなら専門学校へ」という同等の選択肢となるよう高等教育を複線的にデザインし直すということだ。

そのためには、現状、大学と比べると学校任せになっていた専門学校教育の質の保証や底上げが求められることになる。職業実践専門課程導入をはじめとする一連の取り組みに、すでに国は本腰を入れており、平成24年度以降、専修学校関係予算は毎年上昇を続けている(図6)。

今後、プロフェッショナルラインとしての専門学校の役割が確立され、それが社会的にも認知されていくことへの期待は大きい。そんななかで、高校の進路指導の現場では、生徒の希望、

図6 専修学校関係予算の推移



出所/文部科学省

目的に応じたラインの選択に関する適切な指導が求められていくことになる。

専門学校に関する情報収集が 進路指導における重要なポイントに

同時に、高校の先生が専門学校についてもっと知ることも必要になるだろう。現状、高校に集まる進学先に関する情報は大学に偏りがち。自身も大学を卒業してきている先生は、専門学校について知らないから、生徒にも勧めないというスパイラルに陥っている面があった。

これまでは比較検討の基準もなく、専門学校の情報収集はしにくい面もあったが、職業実践専門課程が設けられたことで一つの評価基準はできた。認定学科に情報公開が義務付けられたこともプラスだ。2015年度の認定は来年2月に発表される予定。最新の情報をしっかりとチェックしてほしい。

リナビ進学 大学・短期大学・専門学校の進学情報サイト

専門学校選びの新しい情報
「職業実践専門課程」に選ばれた
学科・コースの特長とは?

大学・短期大学・専門学校の進学情報サイト「リナビ進学」でも、
職業実践専門課程に認定された学科・コースを紹介しています。
あわせてご参考ください。

access
http://shingakunet.com/rnet/column/syokugyo_column/